

情報セキュリティ政策会議へのコメント

平成 19 年 2 月 2 日

KDDI 株式会社 社長兼会長
小野寺 正

セキュリティ対策の具体的な実施において、実施内容の有効性評価、更なる対策の持続的改善施策の検討は重要であり、それぞれの検討において具体的な進捗、今後の方向性が見えてきたことを評価します。なお、今後の継続的な検討において、以下の点にご配慮いただくことにより、特に産業界が情報セキュリティに前向きに取り組む機運を作って頂きたいと考えます。

- (1) 一般的に、セキュリティ対策を講じることは、システム負荷を増加させ、運用負荷、要員増を招く、すなわちコスト増になると理解されます。しかしながら、セキュリティ確保が必達課題となっている現状においては、経済成長を継続し、ビジネス価値を高めていく中で「いかにセキュリティを確保できるか」といった課題に向けた検討が最も重要となってくると考えられます。環境問題と同様に、セキュリティ施策の実施と経済/ビジネスの成長は相反する事象ではなく、両立すべきものとの考え方を、今後のセキュアジャパンのご検討のなかで盛り込んでいくことが肝要です。
- (2) 情報セキュリティを確保する上で多種多様な施策があります。その中で「セキュリティを確保するための仕組み、枠組みの構築」は重要な施策であることは誰もが認めるところですが、その仕組みが大規模化することにより、形式的な仕組みの運用がなされ、本質的である中身のセキュリティ施策が骨抜きになっているのではないかと懸念があります。具体的な施策の評価・検証において常に本質に目を向ける意識付けをお願いします。
- (3) 個人に向けてのセキュリティ施策は、本来各個人が意識することなくセキュリティが確保されていることが望ましいことは当然です。「テクノロジー（システム化技術など）」を駆使し、人間に優しい安心・安全な社会環境を構築する必要があることを痛感しています。今後のセキュリティ施策の策定においては、本視点を加味した効果的・有効なテクノロジーの研究開発、及びその基盤構築についてご配慮いただきたい。

以上